

# The 埼玉県立 Museum 近代美術館 of Modern Art, Saitama



## 埼玉県立近代美術館 概要

### ごあいさつ

埼玉県立近代美術館は、心のうおいを求める県民の要望にこたえ、1982年11月3日、緑豊かな北浦和公園の中に開館しました。当館は、国内外の優れた美術作品を収集・展示するとともに、ユニークで密度の高い企画展を開催しています。また、次代を担う子どもたちが美術の鑑賞を通して豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育むための教育普及プログラムを提供しています。さらに、美術図書を公開したり、美術に関わる人たちに交流の場を提供するなど、美術情報センターとしての役割も果たしています。多くの方が気軽に訪れ、美術と出会い、新たな発見ができる開かれた美術館を目指しています。

### 沿革

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 1976年 | 11月 | 政策会議で県立美術館の建設を決定   |
| 1977年 | 10月 | 埼玉県立美術館建設委員会を設置  |
| 1978年 | 11月 | 政策会議で埼玉県立美術館基本計画を決定<br>埼玉県立美術館建設専門委員会を設置                 |
| 1979年 | 4月  | 埼玉県美術作品取得基金条例の施行   |
| 1980年 | 3月  | 建設工事請負契約の締結、起工式  |
| 1981年 | 4月  | 県民部内に美術館開設準備室を設置   |
| 1982年 | 2月  | 建物竣工   |
|       | 11月 | 埼玉県立近代美術館条例の施行<br>教育委員会所管の教育機関として、埼玉県立近代美術館が開館 館長・本間正義   |
| 1988年 | 10月 | 埼玉県立近代美術館フレンド発足  |
| 1991年 | 5月  | 本間正義が館長を退任、田中幸人が館長に就任                                    |
| 1997年 | 8月  | ミュージアム・ショップ開店  |
| 2000年 | 4月  | 田中幸人が館長を退任、桐川卓雄が館長に就任(埼玉県教育委員会教育長兼任)<br>ガイド・ボランティアが活動を開始 |
| 2001年 | 9月  | 空調設備工事、常設展示室(現在の展示室A)の拡張に伴う休館(9月10日～2002年3月11日)          |
| 2002年 | 4月  | 桐川卓雄が館長を退任、稲葉喜徳が館長に就任(埼玉県教育委員会教育長兼任)                     |
| 2003年 | 4月  | 北浦和公園が美術館管理となる   |
| 2006年 | 4月  | 稲葉喜徳が館長を退任、島村和男が館長に就任(埼玉県教育委員会教育長兼任)                     |
| 2010年 | 4月  | 島村和男が館長を退任、前島富雄が館長に就任(埼玉県教育委員会教育長兼任)                     |
| 2011年 | 4月  | 前島富雄が館長を退任、建畠哲が館長に就任                                     |
| 2013年 | 9月  | 第1期大規模改修工事(展示室改修等)に伴う休館(9月2日～2014年4月1日)                  |
| 2014年 | 9月  | 第2期大規模改修工事(外壁・展示室改修等)に伴う休館(9月1日～2015年4月10日)              |

### 埼玉県立 近代美術館の 目指すもの

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。



### 黒川紀章の 設計による建築

当館は黒川紀章が初めて設計した美術館です。建物全体がグリッド(格子)により構成されており、正面のエントランス・ポーチには内部と外部を繋ぐ中間領域として、鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ています。

ファサード(建物正面)にはグリッドの固さを破るように、波状の曲面ガラスがはめ込まれています。2階展示室は、このガラスのファサードの一部から外光を取り込むことも可能であり、展示室から北浦和公園の美しい緑を目にすることもできます。

建物中央には、地階から3階までを貫く吹き抜けが設けられ、ガラス屋根から自然光が入ります。この独特の空間を活用して、天井から展示物を吊るしたり、音が満ち溢れるようなミュージアム・コンサートを行ったりしています。

開館後の1986年に設置された田中米吉の《ドッキング(表面) No.86-1985》は、5つの構造物を建物と合体させた特異な作品です。



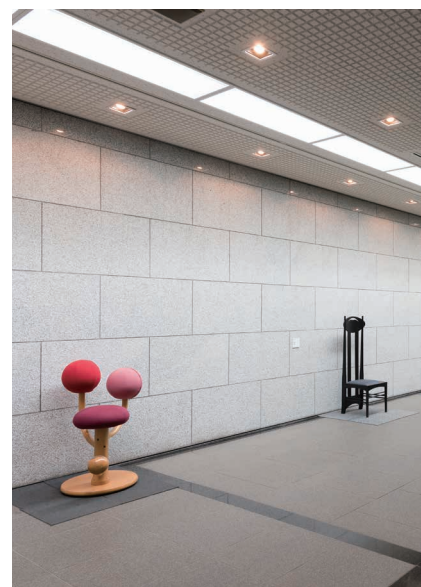
### 公園・野外彫刻

緑豊かな北浦和公園には、広々とした芝生広場や音楽に合わせて水が踊る音楽噴水があり、憩いのひとときを過ごすことができます。また、公園内には野外彫刻が数多く設置されているので、日常の中にアートを感じることができます。



### 椅子の美術館

開館当初から近代以降の優れたデザインの椅子を収集し、常時数十種類を館内に展示しています。これらの椅子はただ鑑賞するだけではなく、自由に座ってそのデザインを楽しむこともできます。



外部からの借用作品や作家のご協力などにより、収蔵作品を核としつつも従来の常設展のイメージにとらわれない企画性の高い展示を、年4回に分けて行っています。

※MOMAS(モマス)は埼玉県立近代美術館(The Museum of Modern Art, Saitama)の略称です。

#### [収蔵作品]

埼玉の近代美術を核として、これに影響を与えた内外の優れた作品を収集しています。(2018年3月現在 3,706点所蔵)

#### [主な収蔵品]

**クロード・モネ** 1840(パリ/フランス)ー1926(ジヴェルニー/フランス)

ー

ジヴェルニーの積みわら、夕日

1888-89年 油彩、カンヴァス 65.0×92.0cm

印象派の代表的画家。1870年代は戸外の光をすばやいたッチで捉えた作品を制作。83年に終生の地ジヴェルニーへ移り、水面の光の反映や、大気に浸透する光の微妙なニュアンスの表現を探究。《積みわら》にはじまる連作群を経て、記念碑的な大作《睡蓮》に至る。その後の20世紀美術の動向にも大きな影響を与えた。

同じ視点から朝の効果を描いた他の2点の作品の存在が知られています。2年後に描かれる25点の《積みわら》によって、モネは《睡蓮》へと連なる壮大な連作の世界に分け入っていきますが、この作品はその先駆けとなった記念碑的なものです。1870年代までの画風に比べ、筆触は柔らかく繊細になり、幾重にも重ねられて、画面のすみずみに及んでいます。どっしりとした積みわらを基点に、流動する大気と浸透する光、絶え間なく変容する世界が見事に捉えられています。厚みのある大気や光に包まれて、あらゆるものがゆっくりと動いているようです。モチーフの積みわらは、脱穀前の麦を積み上げたもので食料貯蔵庫の役割も果たし、農業国フランスの大地の豊穡を象徴するものでもありました。

#### 瑛九

1911(宮崎県宮崎市)ー1960(埼玉県さいたま市)

ー

雲

1959年 油彩、カンヴァス 162.2×130.3cm

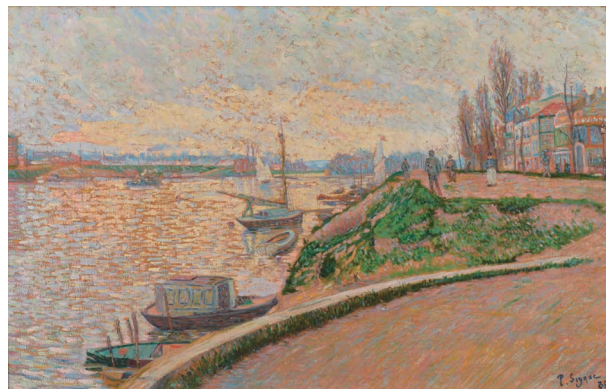
本名は杉田秀夫。日本美術学校で絵画を学ぶ。16歳から美術評論を始める。1936年フォトグラムの作品集《眠りの理由》を刊行し、この時から「瑛九」のペンネームを使用。51年に〈デモクラート美術家協会〉を結成。戦後の日本の美術において、先駆的役割を果たした。

瑛九は風景や人物などの具象的な油彩画から出発し、具象と抽象を往復しながら、幻想的な表現を含む多くの実験的な作品を制作しました。そして、最後にたどりついた表現方法は、点描による抽象絵画でした。この作品は、48歳で没する前年に描かれたものです。1940年代後半から自由な発想で有機的な形体を主体とする作品を制作していましたが、やがて57年頃にはエアー・コンプレッサーを使って絵具を吹き付ける作品を制作するようになります。その翌年から、多くの丸や細胞のような図柄が画面に現れ始め、それらはやがて、この作品のような点描へと発展していきました。晩年の瑛九は、執拗なまでにこの表現を追い続けました。





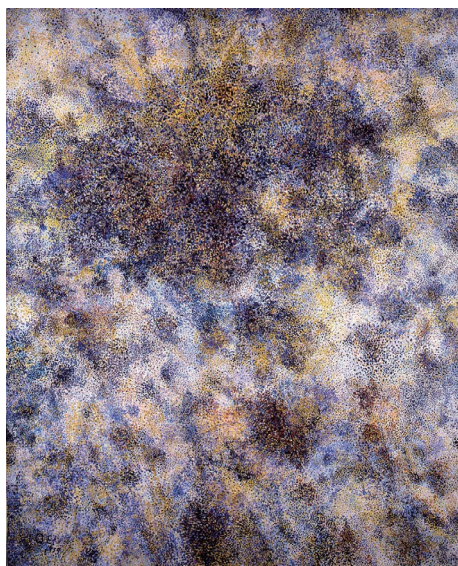
小茂田青樹《春の夜》1930



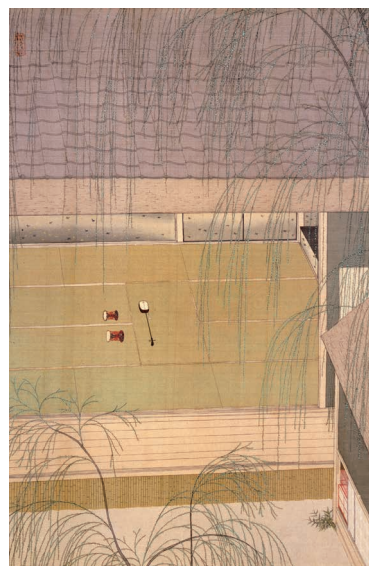
ポール・シニャック《アニエールの河岸》1885



クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》1888-89



瑛九《雲》1959



小村雪岱《青柳》1924頃



斎藤豊作《フランス風景II》1910頃

## 事業案内

## 企画展

ユニークなテーマによる密度の高い企画展を年5回行っています。

企画展の  
基本的な方針

1. 埼玉県ゆかりの美術家に関するもの
2. 日本の近代美術を検証するもの
3. ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど海外の近代美術を紹介するもの
4. 国内外を問わず現代美術を紹介するもの
5. 上記以外の時代や分野を近代美術館の視点で捉え直すもの

## 主な展覧会歴

- 1982 開館記念展 印象派からエコール・ド・パリへーその熱情と苦悩
- 1984 小茂田青樹とその周辺ー近代日本画の青春譜
- 1985 寺内萬治郎展ー小麦色の裸婦の詩
- 1986 現代の「白と黒」
- 1987 斎藤豊作と日本の点描
- 1990 近代洋画の旗手 斎藤与里とその時代
- 1991 セザンヌから浴衣がけの絵画へー森田恒友とその時代
- 1992 風刺の毒  
須田剋太展ーほとばしる生命・画業50年  
開館10周年記念展 アダムとイヴ
- 1993 ニュー・ヴィジョン・サイタマー手わざと現代
- 1995 1970年ー物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち
- 1997 ジェームズ・タレル展 夢の中の光はどこからくるのか?
- 2002 開館20周年記念展 モネからセザンヌへー印象派とその時代
- 2005 椅子のデザインー日本の〈座〉の誕生から未来へ
- 2007 開館25周年記念展 田園讃歌ー近代絵画に見る自然と人間
- 2009 長澤英俊展ーオーロラの向かう所  
小村雪岱とその時代ー粋でモダンで繊細で
- 2011 生誕100年記念 瑛九展ー宇宙に向けて
- 2012 草間彌生 永遠の永遠の永遠  
開館30周年記念展 日本の70年代 1968-1982
- 2013 たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展  
浮遊するデザイン 倉俣史朗とともに
- 2014 戦後日本住宅伝説ー挑発する家・内省する家
- 2015 旅と芸術ー発見・驚異・夢想
- 2016 NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体  
日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト
- 2017 遠藤利克展ー聖性の考古学  
開館35周年記念展 ディエゴ・リベラの時代 メキシコの夢とともに
- 2018 辰野登恵子 オン・ペーパーズ A Retrospective 1969-2012  
インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史

## 教育・普及

次代を担う子どもたちが美術の鑑賞や表現活動を通して、豊かな感性や創造性を育むためのプログラムを提供しています。

## MOMASのとびら

美術館の作品などをもとに、子どもを中心に大人までさまざまな年代が楽しめるプログラム「MOMASのとびら」を実施しています。美術作品を「対話による鑑賞」で見ながら、作品に関連した表現活動を行って作家の考えを追体験するといった、鑑賞と表現が一体となったプログラムなどがあります。

## 学校との連携

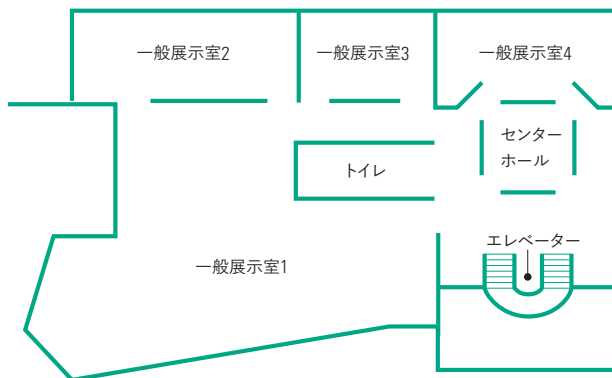
学校の教育活動で当館を訪れる児童・生徒に「感動的な作品との出会い」の場を提供しています。また、学校での図工・美術教育をより充実させるために、学校現場での鑑賞指導に協力しています。



## 施設・利用案内 フロアマップ

## BF

|                                 |
|---------------------------------|
| 一般展示室1                          |
| 612.88m <sup>2</sup>   CH 4.31m |
| 一般展示室2                          |
| 231.52m <sup>2</sup>   CH 4.01m |
| 一般展示室3                          |
| 138.91m <sup>2</sup>   CH 4.01m |
| 一般展示室4                          |
| 161.36m <sup>2</sup>   CH 3.00m |
| センター・ホール                        |
| 81.43m <sup>2</sup>             |

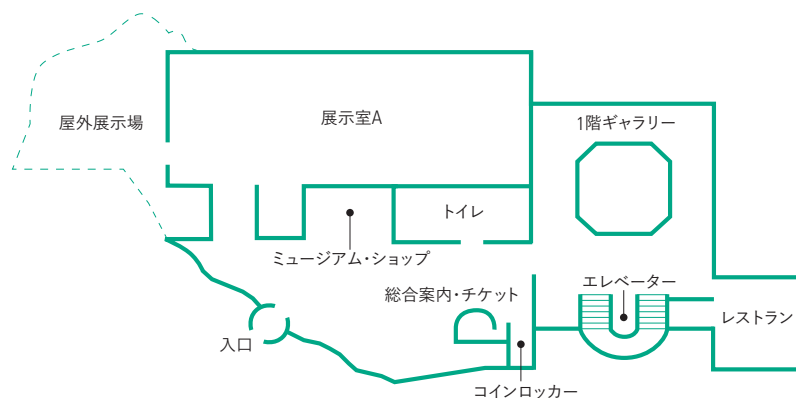


## 一般展示室

美術に関する作品発表の場として貸し出しています。利用に当たっては、利用審査基準に基づく審査があります。

## 1F

|                                 |
|---------------------------------|
| 展示室A                            |
| 550.40m <sup>2</sup>   CH 4.06m |
| 屋外展示場                           |
| 242.26m <sup>2</sup>            |
| ギャラリー                           |
| 27.75m <sup>2</sup>             |
| ミュージアム・ショップ                     |
| 89.21m <sup>2</sup>             |
| レストラン                           |
| 89.21m <sup>2</sup>             |



## お体の不自由な方へ

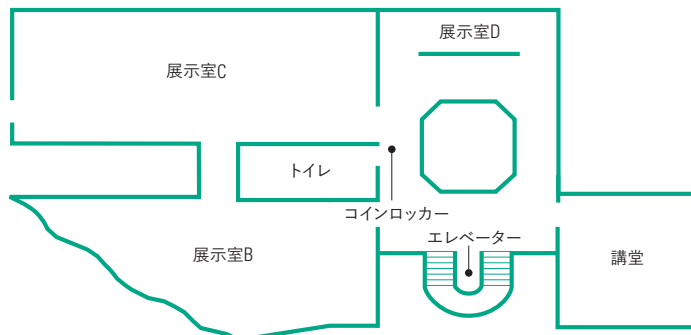
貸出し用車椅子、お手洗い等の設備がございます。

駐車場が必要な方は、事前にご相談ください。

その他お困りのことは、1階総合案内にお越しください。筆談もできます。

## 2F

|                                 |
|---------------------------------|
| 展示室B                            |
| 405.67m <sup>2</sup>   CH 3.16m |
| 展示室C                            |
| 517.66m <sup>2</sup>   CH 3.86m |
| 展示室D                            |
| 92.42m <sup>2</sup>   CH 3.00m  |
| 講堂                              |
| 234.99m <sup>2</sup>   CH 3.00m |
| 収容人員120人                        |

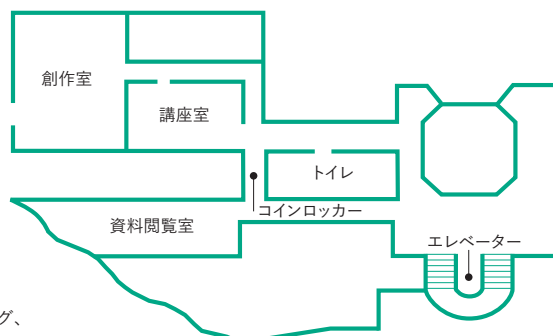


## 講堂

講演会やイベントなどさまざまな催しを開催するほか、貸し出しも行っています。

## 3F

|                      |
|----------------------|
| 創作室                  |
| 137.45m <sup>2</sup> |
| 講座室                  |
| 66.26m <sup>2</sup>  |
| 資料閲覧室                |
| 136.68m <sup>2</sup> |



## 資料閲覧室

当館が所蔵する美術関係図書や展覧会カタログ、美術雑誌などを自由に閲覧できます。

**施設・利用案内** **建物概要**

所在地 | さいたま市浦和区常盤9丁目30番1号  
 設計・監理 | 株式会社黒川紀章建築都市設計事務所

**開館時間**

10:00～17:30(展示室への入場は17:00まで) ※3F資料閲覧室は13:00～17:30

**休館日**

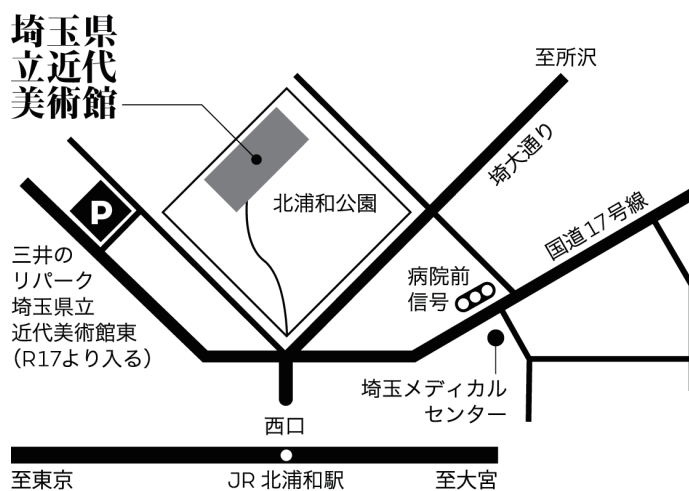
月曜日(祝日または県民の日の場合は開館)、年末年始、メンテナンス日

**観覧料**

入館料:無料 MOMASコレクション:一般200(120)円、大高生100(60)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金。  
 ※中学生以下および障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料  
 企画展:企画展ごとに定めます。

**交通案内**

JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)  
 JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分  
 当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。  
 団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

**発行情報**

発行日 2019年3月  
 編集 埼玉県立近代美術館  
 デザイン 川村格夫  
 発行 埼玉県立近代美術館  
 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1(北浦和公園内)  
 電話048-824-0111(代表)